



第32期

文楽

夫線形
太三味人

研修生募集

国立文楽劇場では伝統芸能の伝承者を養成するため、文楽の研修生を募集します。

研修期間 令和5年4月から令和7年3月まで（2年間） 募集期間 令和4年10月3日（月）から令和5年2月17日（金）まで 協力：公益財団法人文楽協会

独立行政法人日本芸術文化振興会
国立文楽劇場

お問合せ

企画制作課養成係（平日午前10時～午後6時 7/1、12/29～1/3を除く）
〒542-0073 大阪市中央区日本橋1丁目12番10号 TEL.06(6212)5529 ✉ bunraku2021@ntj.jac.go.jp



文楽研修生募集

人形浄瑠璃文楽は、太夫の語りと三味線弾き、人形遣いの三業が心をあわせて一つの舞台を作り上げる総合芸術です。江戸時代初期に大阪で生まれ、いつの時代でも変わらない人間の情を描いてきました。文楽の技芸員(太夫・三味線・人形)のうち約半数は、この文楽研修了者です。

国立文楽劇場は、文楽の舞台での活躍を目指す若者を募集しています。

文楽研修

文楽の技芸員(太夫・三味線・人形)になるための基礎教育を行うことを目的としています。昭和47年(1972)に財団法人文楽協会(現・公益財団法人文楽協会)の協力を得て開始しました。

文楽への理解を深めるため、まず研修生全員が太夫・三味線・人形の基本を学びます。適性審査の後、それぞれの専門分野にわかれて、より実践に近い技芸を習得していきます。

研修修了後は幹部技芸員に入門、公益財団法人文楽協会と契約し、技芸員として舞台に出演します。

- ▶ 応募資格 中学校卒業(卒業見込みを含む)以上の男子で、原則として23歳以下の者。経験不問。
- ▶ 選考試験 令和5年2月下旬から3月上旬
作文、簡単な実技試験、面接等を行います。
- ▶ 選考場所 国立文楽劇場
- ▶ 研修期間 令和5年4月から令和7年3月までの2年間
- ▶ 研修時間 原則として、平日午前10時から午後6時まで。
(土・日・祝日や午後6時以降に及ぶこともあり)
- ▶ 研修場所 国立文楽劇場(文楽の東京公演時は国立劇場
(東京都千代田区)他)
- ▶ 研修科目 義太夫・三味線・人形の基礎、舞台実習、公演見学のほか、技芸員になる上で必要な箏曲・胡弓・謡・狂言・日本舞踊・作法・講義(人形浄瑠璃の歴史、演目等)などを受講します。但し、適性審査後は専攻に即した科目を中心に受講することとなります。
- ▶ 適性審査 研修開始後8か月以内に適性審査を実施、専攻(太夫・三味線・人形)を決定。不合格となった場合は、研修生の身分を失います。
- ▶ 受講料 無料
- ▶ 宿 舎 遠隔地に居住する研修生は、宿舎を貸与(審査あり・有料)又は住宅費補助金を給付。
- ▶ 適性審査合格者には、伝統芸能伝承奨励費の貸与資格が与えられます。

太 夫 TAYŪ



太夫は、登場人物すべての台詞・心理・動作などを1人で語り分け、物語を展開していく重要な役割を担っています。専攻課程では、義太夫節独特の発声法や的確な表現の習得をめざして、様々な曲目を履修します。

三味線 SHAMISEN



文楽では、太棹と呼ばれる三味線を用います。三味線弾きはその太く低い響きにより、浄瑠璃の感情を表現します。専攻課程では基本奏法の習得に加え、音色で感情を表現することを学んでいきます。

人 形 NINGYŌ



文楽では、一体の人形を主遣い・左遣い・足遣いの3人で操ります。研修では、人形遣いの出発点ともいうべき“足遣い”を中心に履修します。専攻課程に入ってから、実際の文楽公演での舞台実習も多くなります。

研修の様子を動画で紹介しています。

https://www.youtube.com/watch?v=URgc_hYYS04



「文化デジタルライブラリー」では、文楽の歴史や解説をわかりやすく紹介しています。
<http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/modules/learn/>

文楽 舞台芸術教材

検索